

むしむしワールド

～いきもの多様性～

? 生物多様性とは?

地球上のいきものは、長い歴史の中で、さまざまな環境に適応し進化して、3000万種ともいわれる多様な生きものが生まれました。全てのいきものは、つながりあってバランスを保って存在しています。

生物多様性には、「生態系」・「種」・「遺伝子」の3つのレベルで多様性があります。生態系の多様性は、さまざまなタイプの自然環境があること、種の多様性は、さまざまな種類のいきものが生息・生育していること、遺伝子の多様性は、同じいきもの種類の中にも遺伝子による違いがあることを示しています。

(京都市生物多様性プラン より)



? 種の多様性とは?

体が「頭部」「胸部」「腹部」の3つの部分からできていて、胸部から「あしが6本」「基本的にははねが4枚」あるいきものを『昆虫』といいます。

『昆虫』は、これら共通の特徴を持ちながらも、環境に合わせて多種多様に進化し、生物の中では最も種類が多く、名前がついているものだけでも約100万種類が知られています。このように、同じ『昆虫』というグループの中での違いを「種の多様性」といいます。

「むしむしワールド」では、「色」「形」「大きさ」のさまざまな昆虫たちを、波がうねるようにレイアウトして展示しています。

? オオセンチコガネをよく見てみよう! 「地域変異」と「個体変異」とは?

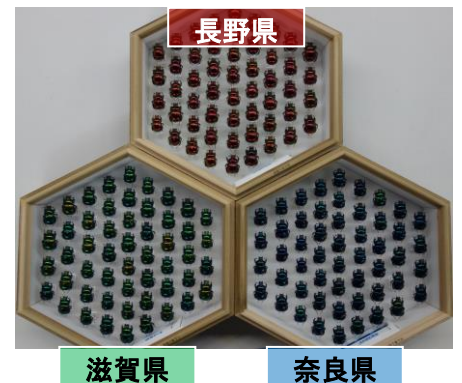
「むしむしワールド」では、オオセンチコガネの標本を約1300点展示しています。オオセンチコガネは日本全国に生息する甲虫の仲間です。森や林の中で動物の糞を食べて暮らしています。食べ物とは裏腹に、成虫はピカピカの金属光沢をもつ美しい昆虫です。



<地域変異>

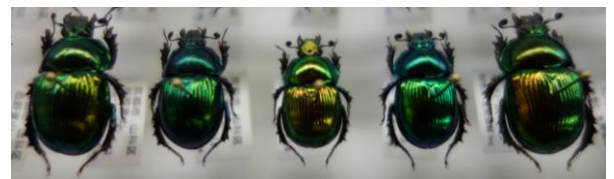
同じ種類のオオセンチコガネでも、すんでいる地域によって色が異なります。このような違いを「地域変異」といいます。なお、京都市内のオオセンチコガネの多くは赤色をしています。

- ・京都市山科区から滋賀県・三重県にかけて → 緑色(通称:ミドリセンチコガネ)
※山科区牛尾山のもの、緑色が強く、ミドリセンチコガネの産地として全国的にも有名です。
- ・奈良県から和歌山県にかけて → 青色(通称:ルリセンチコガネ)
※やや紫みを帯びた鮮やかな青色のことを瑠璃色といいます。
- ・静岡県や長野県など → 赤色(通称は特にはないようです。)



<個体変異>

また、同じ産地のオオセンチコガネでも、1匹ずつ個体をよく見ると、「色」や「大きさ」が微妙に異なります。このような違いを「個体変異」といいます。



京都府 牛尾山 産

探究・研究コーナー! 調べてみよう!

オオセンチコガネは、北海道から九州まで日本中どこの里山や奥山でも見ることができます。あなたも身近なオオセンチコガネを採集し、その色を調べてみましょう。おもしろい色の変化を見つけることができるかもしれません。